

西部総合処理センター焼却施設整備・運営事業

生活環境影響調査【概要版】

西宮市では、平成 31 年 3 月に策定した「西宮市一般廃棄物処理基本計画」において、今後、整備するごみ処理施設は、環境への負荷を低減するとともに、災害発生時においても処理が継続できるよう強靭な処理施設とすることとしています。

今回、西宮浜の西部総合処理センターに令和 14 年度の稼働を目標として焼却施設の整備を計画しています。

本調査は、新たな焼却施設の整備に当たって、対象の施設が周辺地域の生活環境に及ぼす影響をあらかじめ調査し、その結果に基づき、周辺地域の環境保全に配慮したきめ細やかな対策等の予測・評価を行い、施設の計画に反映するためのものです。

本資料は、それらの調査結果の概要をとりまとめたものです。

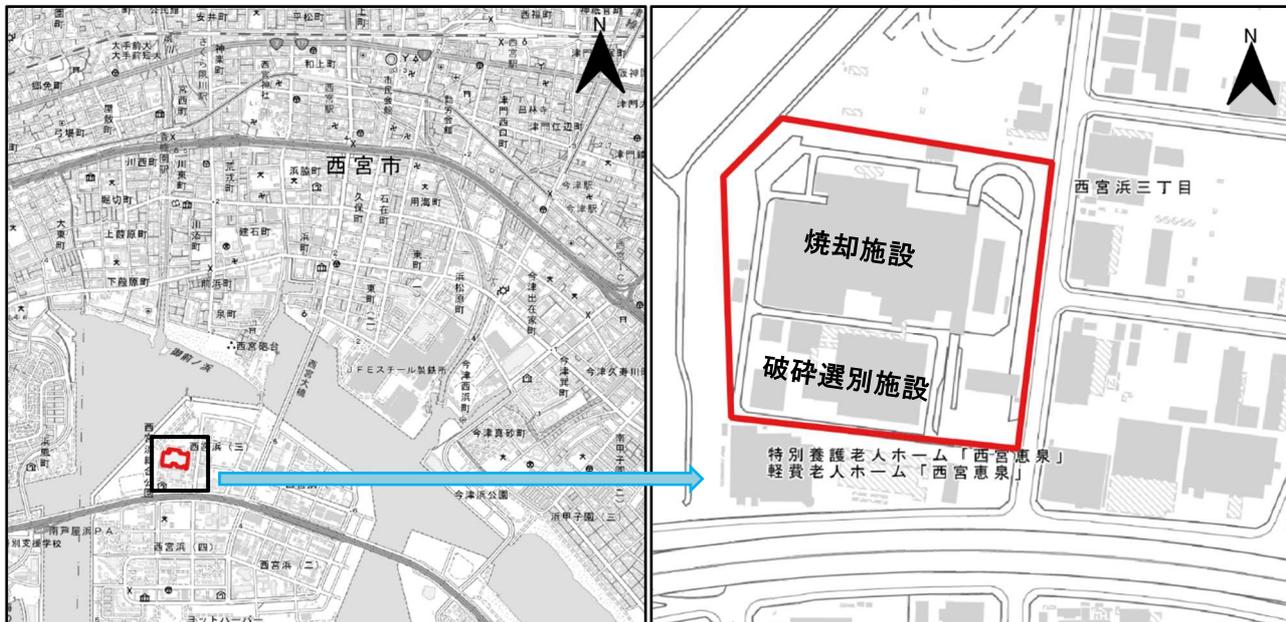
■施設計画の概要

施設の概要

項目		施設の概要
事業の種類		ごみ処理施設（焼却施設）の設置事業
事業の場所		兵庫県西宮市西宮浜 3 丁目 8 番 西部総合処理センター
稼働目標年度		令和 14 年度
焼却施設	処理方式	連続燃焼ストーカ式
	処理能力	472 t /24h (157.3 t /24h × 3 炉)
	処理品目	可燃ごみ、植木粗大、汚物等、破碎可燃、資源残渣、死獣、災害廃棄物

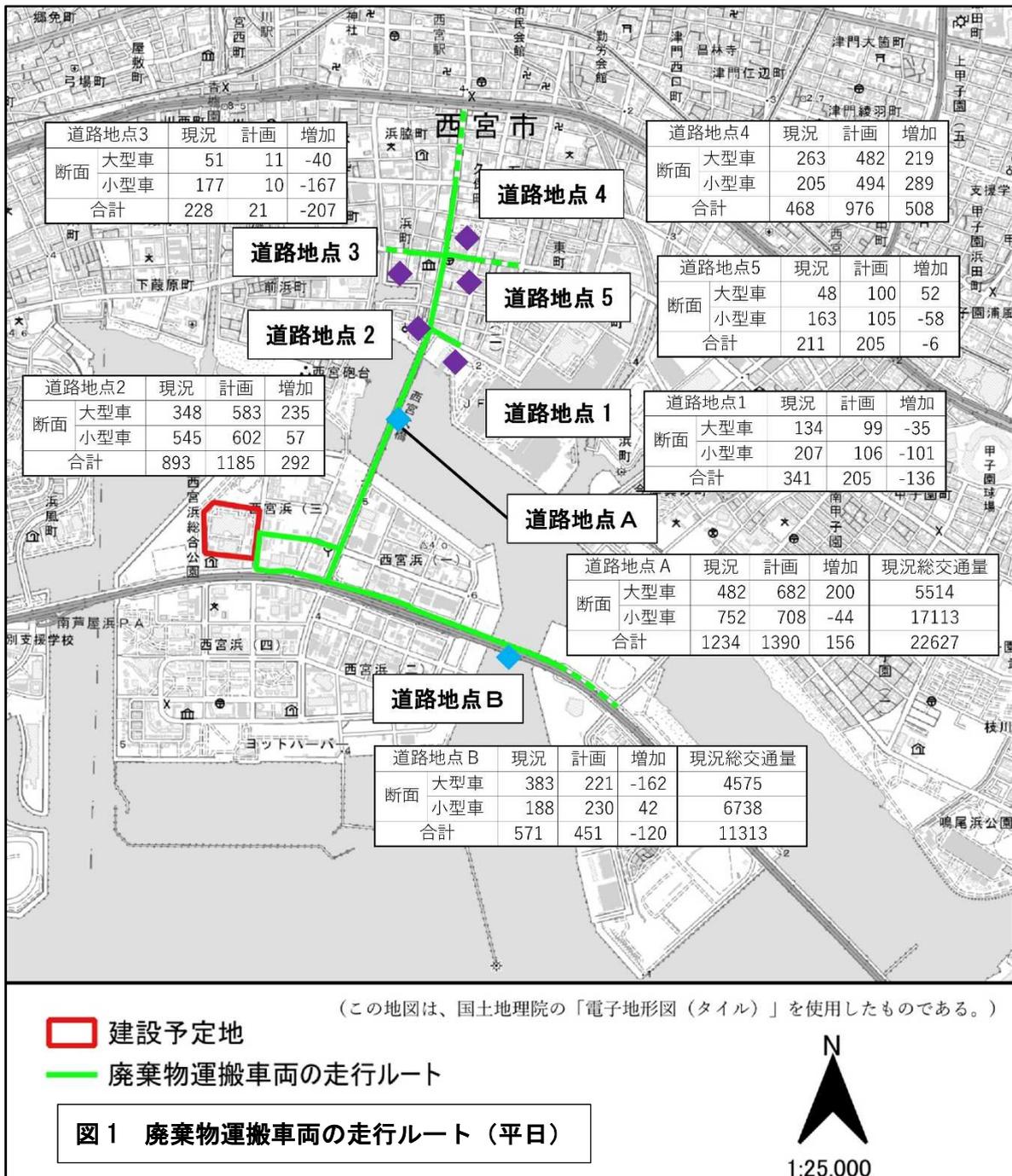
施設建設予定地の位置

施設は、西宮市西部総合処理センターの破碎選別施設の解体後に建設を予定しています。



廃棄物運搬車両の走行台数と搬入ルート

廃棄物運搬車両の搬入ルートは、市道札幌筋線の西宮大橋を通るルート（道路地点A）と県道芦屋鳴尾浜線の西宮浜大橋（道路地点B）を通るルートで、平日が廃棄物運搬車両のうち約76%が西宮大橋、約24%が西宮浜大橋を通行、休日が廃棄物運搬車両のうち約76%が西宮大橋、約24%が西宮浜大橋を通行します。



注) 1. 表中の交通量は、廃棄物運搬車両等の西部総合処理センターへの往復台数を示します。
 2. 小型車は一般事業者及び市民の持ち込み車両、通勤車両、大型車は市のパッカー車、委託業者、許可業者の運搬車両等。



注) 1. 表中の交通量は、廃棄物運搬車両等の西部総合処理センターへの往復台数を示します。
 2. 小型車は一般事業者及び市民の持ち込み車両、通勤車両、大型車は市のパッカー車、委託業者、許可業者の運搬車両等。

工事関連車両の走行台数と搬入ルート

工事中の工事関連車両の走行ルートは、市道札場筋線の西宮大橋を通るルート（道路地点A）と県道芦屋鳴尾浜線の西宮浜大橋（道路地点）、夙川橋（道路地点C）を通るルートで、工事車両は各ルートで各約 33%を通行します。



注) : 1. 表中の交通量は、工事関連車両の西部総合処理センターへの往復台数を示します。

■生活環境影響調査の対象項目

本調査では、「廃棄物処理施設生活環境影響調査指針」（平成18年、環境省）（以下「指針」）に基づき影響を受ける生活環境影響調査項目について下表のとおり設定しました。

調査項目			施設の存在・供用					工事中	
			煙突排ガスの排出	施設排水の排出	施設の稼働	施設からの悪臭の漏洩	廃棄物運搬車両の走行	建設機械の稼働	工事用車両の走行
大気環境	大気質	二酸化硫黄	◎						
		二酸化窒素	◎				◎	○	○
		浮遊粒子状物質	◎				◎	○	○
		塩化水素	◎						
		ダイオキシン類	◎						
		水銀	◎						
	騒音	騒音レベル			◎		◎	○	○
	振動	振動レベル			◎		◎	○	○
	悪臭	特定悪臭物質	◎			◎			
水環境	水質		×						
その他	廃棄物			○					
	温室効果ガス			○					

- 【備考】1. ◎○：実施 ×：実施しない
 2. ◎：指針に定められた項目
 ○：指針に定められた項目ではないが、本市が任意に選定した項目
 ×：指針に定められた項目であるが、影響が及ぶ恐れがないとして選定しない項目

■調査等の実施

現況調査については、下表に示す日程で実施しました。

調査項目		調査期間	令和5年度		令和6年度		調査地点
			秋季	冬季	春季	夏季	
大気質	風向・風速	1年間					建設予定地内
	上層気象	冬季					建設予定地周辺1地点
	大気質	4回（1回/季）					建設予定地周辺1地点、市役所
騒音・振動	施設騒音・振動	1回					建設予定地敷地境界南側1地点、敷地内南西1地点
騒音・振動	道路交通騒音・振動	2回（平日・休日）					道路沿道5地点
	交通量	2回（平日・休日）					道路沿道5地点
悪臭	特定悪臭物質、臭気指数	1回（夏季）					建設予定地敷地境界2地点（風上、風下）

■調査・予測結果の概要

煙突排ガスの排出に伴う大気質の影響

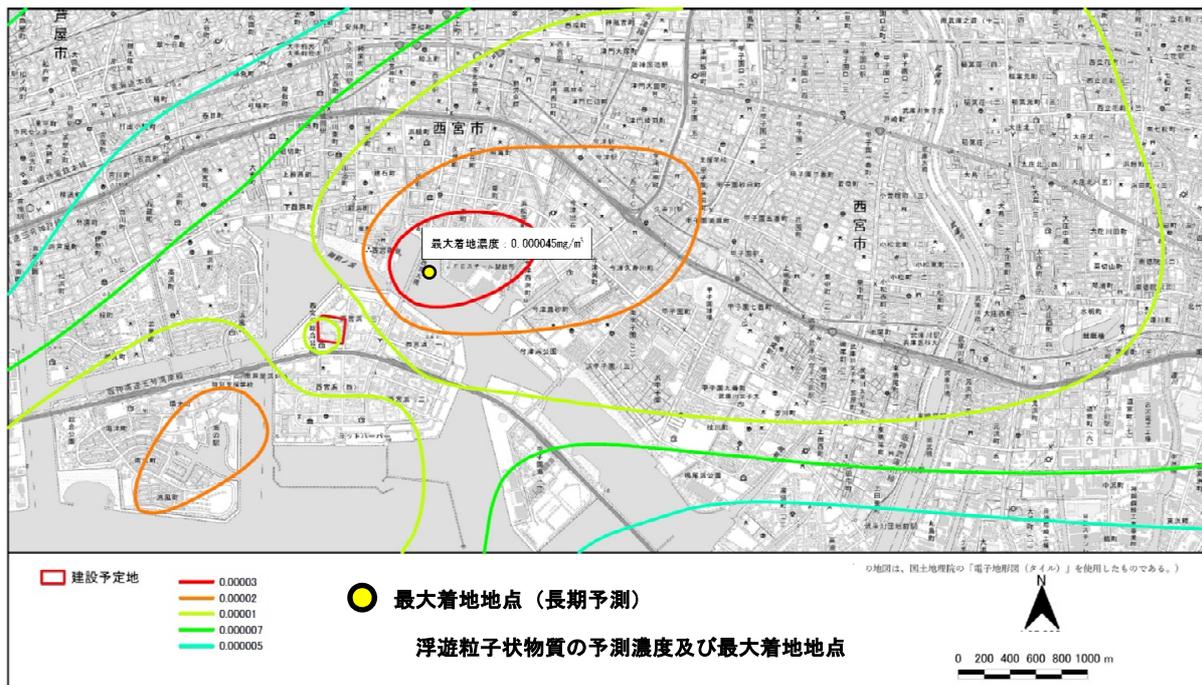
- ・ 予測結果
- ・ 煙突排ガスの排出

長期予測(年平均)の予測結果は、最大着地地点で環境保全目標を下回っています。

予測項目	現況濃度	最大着地濃度地点の予測結果		環境保全目標
		年平均値	日平均値	
二酸化硫黄 (ppm)	0.002	0.002047	0.0051	日平均値0.04ppm以下
二酸化窒素 (ppm)	0.015	0.01504	0.0155	日平均値0.04~0.06ppmのゾーン内またはそれ以下
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.021	0.021045	0.0514	日平均値0.10mg/m ³ 以下
水銀 (ng/m ³)	1.7	1.84	-	年平均値40ng/m ³ (0.04 μg/m ³) 以下
塩化水素 (ppm)	0.001	0.00121	-	年平均値0.02ppm以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0084	0.00885	-	年平均値0.6pg-TEQ/m ³ 以下

注) 1. 年平均値は、バックグラウンド濃度と焼却施設の煙突排ガスの寄与濃度を加算した値です。なお、バックグラウンド濃度は既存焼却施設の寄与分を含んでいます。

2. 日平均値は、日平均値の年間98%値又は2%除外値を示す。



短期予測(1時間値)の予測結果は、最大着地地点で環境保全目標を下回っています。

予測項目	現況濃度	最大着地濃度地点の予測結果	環境保全目標	気象条件
二酸化硫黄 (ppm)	0.014	0.0165	1時間値0.1ppm以下	ダウンドラフト時
二酸化窒素 (ppm)	0.059	0.0665	1時間値0.1~0.2ppm以下	
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.146	0.1476	1時間値0.2mg/m ³ 以下	
水銀 (ng/m ³)	1.7	6.70	年平均値40ng/m ³ (0.04 μg/m ³) 以下	
塩化水素 (ppm)	0.001	0.0051	1時間値0.02ppm以下	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0084	0.02507	年平均値0.6pg-TEQ/m ³ 以下	

注) 予測結果は、バックグラウンド濃度と焼却施設の煙突排ガスの寄与濃度を加算した値です。なお、バックグラウンド濃度は既存焼却施設の寄与分を含んでいます。

廃棄物運搬車両の走行に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質の影響

・予測概要

廃棄物運搬車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の周辺大気への影響について予測を行いました。予測の地点は、廃棄物運搬車両の通行ルートの5地点としました。

・予測結果

廃棄物運搬車両の走行の予測結果は、通行ルートの5地点で予測した結果、全ての地点で環境保全目標を下回っています。

二酸化窒素

単位：ppm

区分	予測地点	年平均値			日平均値の年間98%値	環境保全目標
		現況濃度 ①	将来交通による寄与濃度 ②	予測濃度 ①+②		
平日	道路地点1	0.015	0.000100	0.015100	0.030	日平均値の年間98%値 0.04~0.06のゾーン内またはそれ以下
	道路地点2	0.015	0.000439	0.015439	0.031	
	道路地点3	0.015	0.000129	0.015129	0.030	
	道路地点4	0.015	0.000467	0.015467	0.031	
	道路地点5	0.015	0.000150	0.015150	0.030	

注) 1. 現況濃度（バックグラウンド濃度）は、建設予定地周辺で実施した年平均値です。

2. 寄与濃度は道路両側の官民境界の高い方の濃度です。

浮遊粒子状物質

単位：mg/m³

区分	予測地点	年平均値 (mg/m ³)			日平均値の2%除外値	環境保全目標
		現況濃度 ①	将来交通による寄与濃度 ②	予測濃度 ①+②		
平日	道路地点1	0.021	0.000011	0.021011	0.051	日平均値の2%除外値 0.10mg/m ³ 以下
	道路地点2	0.021	0.000040	0.021040	0.051	
	道路地点3	0.021	0.000011	0.021011	0.051	
	道路地点4	0.021	0.000044	0.021044	0.051	
	道路地点5	0.021	0.000015	0.021015	0.051	

注) 1. 現況濃度（バックグラウンド濃度）は、建設予定地周辺で実施した年平均値です。

2. 寄与濃度は道路両側の官民境界の高い方の濃度です。

建設機械の稼働に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質の影響

・予測の概要

工事中の建設機械の稼働に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の周辺大気への影響について、予測を行いました。

建設機械から発生する排気ガスが最も多くなる新焼却施設施設（工事開始後 37 ヶ月後）を予測対象時期としました。

・予測結果

建設機械の稼働に伴う予測の結果、いずれの項目についても環境保全目標値を下回っていました。

予測項目	単位	年平均値			日平均値の年間98%値又は2%除外値	環境保全目標値
		現況濃度 ①	寄与濃度 ②	合成値 ①+②		
二酸化窒素 (NO ₂)	ppm	0.015	0.00022	0.01522	0.0302	日平均値の年間98%値 0.04~0.06のゾーン内またはそれ以下
浮遊粒子状物質 (SPM)	mg/m ³	0.021	0.000040	0.021040	0.0514	日平均値の2%除外値 0.10mg/m ³ 以下

注) 1. 現況濃度（バックグラウンド濃度）は、建設予定地周辺で実施した年平均値です。

工車用車両の走行に伴う二酸化窒素、浮遊粒子状物質の影響

・予測概要

工事中の工車用車両の走行に伴い発生する二酸化窒素及び浮遊粒子状物質の周辺大気への影響について、予測を行いました。工車用車両の走行が最も多くなる新焼却施設（工事開始後 27 ヶ月後）を予測対象時期としました。また、予測の地点は、工車用車両の通行ルート上の2地点としました。

・予測結果

工車用車両の予測結果は、通行ルート上の2地点で予測した結果、全ての地点で環境保全目標を下回っています。

項目	予測地点	年平均値			日平均値の年間98%値、2%除外値	環境保全目標
		現況濃度 ①	将来交通による寄与濃度 ②	予測濃度 ①+②		
二酸化窒素 (ppm)	道路地点2	0.015	0.000443	0.015443	0.031	日平均値の年間98%値 0.04~0.06のゾーン内またはそれ以下
	道路地点4	0.015	0.000474	0.015474	0.031	
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	道路地点2	0.021	0.000041	0.021041	0.051	日平均値の2%除外値 0.10mg/m ³ 以下
	道路地点4	0.021	0.000045	0.021045	0.051	

注) 1. 現況濃度（バックグラウンド濃度）は、建設予定地周辺で実施した年平均値です。

2. 寄与濃度は道路両側の官民境界の高い方の濃度です。

施設の稼働に伴う騒音・振動の影響

・予測の概要

施設の稼働による騒音・振動の影響の有無、程度について、敷地境界線上での騒音レベル及び振動レベルの予測を行いました。

・予測結果

予測の結果、施設の稼働に伴う騒音・振動とも環境保全目標値を下回っていました。

単位：dB

予測項目	時間帯	現況調査結果 (①)	予測結果 (②)	環境保全目標値
騒音	朝 (6:00~8:00)	47	45	55
	昼間 (8:00~18:00)	54		60
	夕 (18:00~21:00)	47		55
	夜間 (21:00~6:00)	44		45
振動	昼間 (8:00~19:00)	35	52	60
	夜間 (19:00~8:00)	32		55

注) 1. 現況調査結果は、建設予定地の敷地内で実施した値です。

2. 環境保全目標値は、騒音規制法及び振動規制法に基づく規制基準とした。建設予定地の南側には特別養護老人ホームが隣接するため、5dBを減じた値です。

廃棄物運搬車両等、工事用車両の走行による騒音・振動の影響

・調査、予測の概要

供用開始後の廃棄物運搬車両等及び建設工事中の工事関連車両の走行による騒音・振動の道路沿道への影響について、現況調査及び予測を行いました。工事用車両は、工事用車両の走行が最も多くなる新焼却施設施設（工事開始後 27 ヶ月後）を予測対象時期としました。また、予測に用いる工事用車両の台数は、全ての工事用車両が西宮大橋を通過する条件としました。

・調査、予測地点

現況調査は、市道札幌筋線の西宮大橋を通るルート（道路地点 1~5）5 地点で実施しました。予測は、廃棄物運搬車両等が市道札幌筋線の西宮大橋を通るルート（道路地点 1~5）5 地点、工事用車両の通行ルート（道路地点 2、4）2 地点としました。

・予測結果

予測の結果、いずれの項目についても環境保全目標値を下回っていました。



注) : 1. 表中の交通量は、工事関連車両の西部総合処理センターへの往復台数を示します。

(廃棄物運搬車両の走行による騒音)

単位：dB

区分	予測地点	等価騒音レベル (L_{Aeq})			環境保全目標
		現況騒音	予測結果	増加レベル	
平日	道路地点1	65	65	0	65
	道路地点2	69	69	0	70
	道路地点3	64	65	1	65
	道路地点4	66	66	0	70
	道路地点5	64	64	0	65
休日	道路地点1	63	63	0	65
	道路地点2	67	67	0	70
	道路地点3	63	65	2	65
	道路地点4	64	64	0	70
	道路地点5	62	62	0	65

注) 1. 環境保全目標は、環境基準の道路地点1、3、5が「道路に面する地域」、調査地点2、4が「幹線交通を担う道路に近接する空間」です。

(工事中車両の走行による騒音)

単位：dB

予測時期	予測地点	等価騒音レベル (L_{Aeq})			環境保全目標
		現況騒音	予測結果	増加レベル	
工事開始後27ヶ月	道路地点2	69	69	0	70
	道路地点4	66	66	0	

注) 1. 環境保全目標は、環境基準の「幹線交通を担う道路に近接する空間」です。

(廃棄物運搬車両等の走行による振動)

単位：dB

区分	予測地点	現況振動	予測結果	増加レベル	環境保全目標
平日	道路地点1	35	40	5	70
	道路地点2	43	43	0	
	道路地点3	37	40	3	
	道路地点4	45	45	0	
	道路地点5	43	43	0	
休日	道路地点1	27	35	8	70
	道路地点2	37	40	3	
	道路地点3	34	39	5	
	道路地点4	37	43	6	
	道路地点5	39	40	1	

注) 1. 各数値は、昼間（6～21時）の値です。

2. 環境保全目標値は、「道路交通振動に係る要請限度（第2種区域）」としました。

(工事中車両の走行による振動)

単位：dB

予測時期	予測地点	現況振動	予測結果	増加レベル	環境保全目標
工事開始後27ヶ月	道路地点1	43	43	0	70
	道路沿道4	45	45	0	

注) 1. 各数値は、昼間（6～21時）の値です。

2. 環境保全目標値は、「道路交通振動に係る要請限度（第2種区域）」としました。

建設機械の稼働に伴う騒音・振動の影響

・予測の概要

建設機械の稼働による伴う騒音・振動の影響の有無、程度について、敷地境界線上での騒音レベル及び振動レベルの予測を行いました。

建設機械から発生する騒音レベルが最も高くなる破砕選別施設解体（工事開始後 18 ヶ月後）、振動レベルが最も多くなる新焼却施設施設（工事開始後 22 ヶ月後）を予測対象時期としました。

・予測結果

予測の結果、建設工事中の騒音・振動とも環境保全目標値を下回っていました。

単位：dB

予測項目	予測結果		環境保全目標値
	防音パネル無	防音パネル有	
騒音	77	59	85
振動	53		75

注) 1. 環境保全目標値は、騒音規制法及び振動規制法に基づく特定建設作業に係る基準としました。

2. 建設機械の稼働時間帯は 8:00~17:00 のうち 9 時間以内の稼働としました。

煙突排ガスの排出に伴う悪臭の影響

・予測結果

・煙突排ガスの排出

予測結果は、最大着地地点で環境保全目標を下回っています。

項目	予測結果 (大気安定度不安定時)	環境保全目標
アンモニア	0.009597	1
メチルメルカプタン	0.0000192	0.002
硫化水素	0.000192	0.02
硫化メチル	0.0000960	0.01
二硫化メチル	0.0000086	0.009
トリメチルアミン	0.0000048	0.005
アセトアルデヒド	0.0000480	0.05
プロピオンアルデヒド	0.0000480	0.05
ノルマルブチルアルデヒド	0.0000086	0.009
イソブチルアルデヒド	0.0000192	0.02
ノルマルバレルアルデヒド	0.0000086	0.009
イソバレルアルデヒド	0.00000288	0.003
イソブタノール	0.00086	0.9
酢酸エチル	0.00288	3
メチルイソブチルケトン	0.000960	1
トルエン	0.00960	10
スチレン	0.000384	0.4
キシレン	0.000960	1
プロピオン酸	0.0000288	0.03
ノルマル酪酸	0.00000960	0.001
ノルマル吉草酸	0.00000086	0.0009
イソ吉草酸	0.00000960	0.001

注) 1. 環境保全目標は悪臭防止法に基づく規制基準（一般地域）としました。

施設からの悪臭の漏洩による影響

・調査、予測の概要

供用開始後の施設からの悪臭の漏洩について、現況調査結果や環境保全対策を検討することにより、影響の程度を定性的に予測しました。

・調査結果

項目	単位	調査結果	環境保全目標値
特定悪臭物質	ppm	アンモニア以外は定量下限値未満	悪臭の一般地域の規制基準値
臭気指数	—	10 未満	—

・予測結果

・供用開始後の施設の稼働に伴う悪臭

現況調査結果より特定悪臭物質については、アンモニア以外が定量下限値未満であり規制基準値を下回っており、臭気指数についても 10 未満と臭いの感じられる状況ではありませんでした。施設からの悪臭の漏洩が周辺環境に影響を及ぼすことが考えられるが、以下に示す環境保全対策を講じることから、その影響は軽減されるものと考えられます。

- ① ピット内の空気を焼却炉の燃焼用空気として利用し、ピット内を負圧に保ち、臭気が外部に漏れないようにします。
- ②ピットへのごみ投入口には投入扉を設置し、ごみ搬入時のみ自動開閉できるようにします。

施設の稼働に伴い発生する廃棄物による影響

・調査、予測の概要

施設の稼働に伴い発生する廃棄物について、現況調査結果や環境保全対策を検討することにより、影響の程度を定性的に予測しました。

・予測結果

新焼却施設は既存施設に比べ、焼却処理量、焼却残渣は減少します。また、環境保全対策を講じることから環境保全目標と整合が図られていると評価します。

- ① 適正な運転管理により未燃分が残らないよう焼却します。
- ② 焼却残渣の発生量を低減するために、ごみの減量化・再資源化を推進する。具体的な施策は以下のとおりです。
 - ・ 事業系ごみ発生抑制対策
 - ・ プラごみの発生抑制
 - ・ 食品ロスの削減
 - ・ 環境学習
 - ・ 広報・啓発活動
 - ・ 助成
 - ・ レジ袋・マイバック運動
 - ・ 再使用の推進
 - ・ 広域的な取り組みの推進

施設の稼働に伴う温室効果ガスによる影響

・調査、予測の概要

施設の稼働に伴う温室効果ガスについて、現況調査結果や環境保全対策を検討することにより、影響の程度を定性的に予測しました。

・予測結果

現在西宮市の焼却施設は、2施設が稼働しているが、新焼却施設は1施設での稼働を計画しています。焼却施設が減少すること、発電量は概ね1.5倍を計画していることから温室効果ガス排出は減少します。また、環境保全対策を講じることから環境保全目標と整合が図られていると評価します。

- ① ごみの焼却時に発生する熱を利用して発電し、再生可能エネルギーを活用する。
- ② 照明器具は省エネ型機器を導入し、また、業務に支障のない範囲で必要最小限の照明とすることで、エネルギー使用量を削減する。
- ③ 市民・事業者に対する情報提供や意識啓発を充実し、ごみの減量化・再資源化を推進する。
- ④ 新焼却施設の屋根等に太陽光パネルを設置する。

■環境保全対策

現況調査結果及び予測・評価結果を踏まえ、地域の環境保全に努めるため適切な環境保全対策を実施します。

・事業の実施に伴う環境保全対策

項 目		実施する環境保全対策
大気質	煙突排ガスの排出に伴う大気質の影響	<ul style="list-style-type: none"> ばいじんは集じん機により除去します。 塩化水素、硫黄酸化物は乾式有害ガス除去装置により除去し、反応生成物は集じん機により除去します。 ダイオキシンは、燃焼制御により完全燃焼することで発生抑制し、かつ活性炭吹込み装置により、除去します。 水銀は、活性炭吹込み装置により吸着させ、集じん機により除去します。 窒素酸化物は、燃焼制御や脱硝設備により窒素酸化物を除去します。
	廃棄物運搬車両の走行に伴う影響	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄物関連車両の走行にあたっては、過積載の防止、制限速度の厳守を徹底し、アイドリングストップ、スムーズな加速・減速を行うなどのエコドライブについて指導を行います。 廃棄物運搬車両については、低公害車の導入を促進します。
	建設機械の稼働に伴う影響	<ul style="list-style-type: none"> 建設機械のアイドリングストップを励行します。 工事工程の管理を行い、建設機械が過密に稼働することのないよう努めます。 建設機械は、排出量の少ない排出ガス対策型の建設機械を採用します。
	工事用車両の走行に伴う影響	<ul style="list-style-type: none"> 工事用車両のアイドリングストップを励行します。 工事工程の管理を行い、工事用車両が過密に稼働することのないよう努めます。 交通法規を遵守させるとともに、無用な空ふかしや急加速等の高負荷運転、路上待機等排出ガスを発生する行為は行わないように指導を徹底します。
騒音・振動	施設の稼働による影響	<ul style="list-style-type: none"> 設備機器は、建屋内に配置します。 騒音が発生する設備機器は、騒音の少ない機種を選定します。 騒音が大きい設備機器は、防音室内に設置します。 防音性能が要求される部分は、原則として鉄筋コンクリート造とします。 排風機、ブロワ等の設備には、消音機を取り付ける等、必要に応じて防音対策を施した構造とします。 定期的に機械点検を実施する。 吸音材を使用して室内騒音レベルの低下を図ります。 振動の大きな機械設備は、防振装置を設置します。 場内の機器は、コンクリート製の強固な基礎の上に設置し、振動の発生を抑制します。
	建設機械の稼働に伴う影響	<ul style="list-style-type: none"> 防音効果のある防音シートや防音パネルを設置します。 低騒音型機械を積極的に使用します。 建設機械は十分な点検、整備を行い、性能の維持に努めます。 車両の走行にあたっては、過積載の防止及び制限速度を遵守します。 建設機械のアイドリングストップを励行します。 低振動型機械、低振動工法を積極的に採用します。

項 目		実施する環境保全対策
騒音・振動	廃棄物運搬車両等、工事用車両の走行による影響	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物運搬車両、工事用車両は十分な点検、整備を行い、性能の維持に努めます。 ・ 車両の走行にあたっては、過積載の防止及び制限速度を遵守します。 ・ 廃棄物運搬車両、工事用車両のアイドリングストップを励行します。
悪臭	施設供用後煙突排ガスに係る悪臭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 焼却炉内の空気は、燃焼空気として使用します。 ・ ごみを 850℃以上で完全燃焼させることにより、臭気成分を分解します。
	施設からの悪臭の漏洩による影響	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピット内の空気を焼却炉の燃焼用空気として利用し、ピット内を負圧に保ち、臭気が外部に漏れないようにします。 ・ ピットへのごみ投入口には投入扉を設置し、ごみ搬入時のみ自動開閉できるようにします。 ・ プラットホームの防臭対策として、出入口にスライド式引き戸又は高速シャッターを設置します。
廃棄物	施設の稼働に伴い発生する廃棄物による影響	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な運転管理により未燃分が残らないよう焼却します。 ・ 焼却残渣の発生量を低減するために、ごみの減量化・再資源化を推進する。具体的な施策は以下のとおりです。 ・ 事業系ごみ発生抑制対策 ・ プラごみの発生抑制 ・ 食品ロスの削減 ・ 環境学習 ・ 広報・啓発活動 ・ 助成 ・ レジ袋・マイバック運動 ・ 再使用の推進 ・ 広域的な取り組みの推進
温室効果ガス	施設の稼働に伴う温室効果ガスによる影響	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみの焼却時に発生する熱を利用して発電し、再生可能エネルギーを活用します。 ・ 照明器具は省エネ型機器を導入し、また、業務に支障のない範囲で必要最小限の照明とすることで、エネルギー使用量を削減します。 ・ 市民・事業者に対する情報提供や意識啓発を充実し、ごみの減量化・再資源化を推進します。 ・ 新焼却施設の屋根等に太陽光パネルを設置します。

—お問い合わせ先—

西宮市 環境局 環境施設部 施設整備課

〒662-0934 兵庫県西宮市西宮浜3丁目8番(西部処理センター)
TEL : 0798-22-6601

—生活環境影響調査を受託したものの氏名及び住所—

氏名 : エヌエス環境株式会社 大阪支社
住所 : 大阪府吹田市垂水町2丁目36-27
